

看護学専攻（修士）

試験科目：外国語（英語）

I.

設問1. 著者が述べている2020-2021年のCOVID-19パンデミック期間中に発生した死亡率と出生時平均寿命の変化について、日本語で記載しなさい。

1950年から2019年の間は、年齢標準化死亡率が減少していたが、パンデミック期間の2020年から2021年には増加に転じた。特に世界の成人死亡率は、著しく増加し、過去の減少傾向を逆転させた。一方で5歳未満の小児死亡率は減少し続けた。これにより世界の出生時平均余命はそれまで増加傾向にあったが、2019年から2021年の間に1.6年減少した。このようにパンデミック期間は成人死亡率の増加と平均余命の減少という、長年の改善傾向を一時的に悪化させるという大きな変化をもたらした。

II.

設問1. RRSシステムは、主にどのような目的で用いられることが提案されているか、説明しなさい。

急性期病院における、臨床的悪化に対処するための介入措置

設問2. RRSシステムに関して、本研究においてはどのような問題提起がなされているか、説明しなさい。

- ・夜間のRRSのパフォーマンスは、必要な起動回数と起動後の患者の転帰の点で効果的ではない可能性がある。
- ・夜間のケアの強化は日中よりも好ましくない可能性があり、夜間の患者の状態悪化への対応における医療専門家間の連携に関する研究は限られている。
- ・看護師は臨床症状の悪化に対応して医師と効果的な連携を確立することが困難になり、患者のケアの質と結果が悪化する可能性がある。

設問3. 夜勤帯のコミュニケーションについては、どの職業間でのコミュニケーションについて先行研究が行われているか、その職業を答えなさい。

内科医と看護師

設問4. 先行研究において示唆されている、夜勤帯における上記の2職間でのコミュニケーションの障壁となっている原因を4つ挙げなさい。

- ①無効なコミュニケーション
- ②職業間の認知の違い
- ③心理的ストレス
- ④気分の変動

設問5. 先行研究において、夜勤帯でのコミュニケーションでの困難や障壁が、どのような影響を与えると示唆されているか、答えなさい。

- ・悪化する患者への適切な対応を妨げる可能性がある。
- ・夜間に主治医チームが患者の治療に当たれない場合、医師は決断を下したり呼び出しに応じることを躊躇する。これは、悪化する患者の状態に対応する際に看護師が直面する課題の1つ。

設問6. この研究の目的を答えなさい。

夜勤中に悪化する患者の状態に対応するために医師と連携する際に看護師が経験する困難を評価する尺度を開発し、背景特性、夜勤の実践、施設特性など、開発された尺度に関連する要因を分析。

看護学専攻（修士）

試験科目：専門科目（老年看護学）

I.

設問1. 認知症を呈する代表的な4つの疾患について、その名称と特徴的な症状や所見についてそれぞれ記載しなさい。

（解答のポイント）アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、血管性認知症と、それぞれの特徴的・所見

設問2. 認知症の中核症状について6つ記載しなさい。

記憶障害、見当識障害、実行機能障害、失認、失行、失語、注意障害等

設問3. 認知症とせん妄、うつ病の鑑別（相違）について説明しなさい。

（解答例）認知症は数ヶ月～数年かけて緩徐に進行し不可逆的である。記憶障害・見当識障害・実行機能障害などが持続的にみられる。せん妄は急性発症で、幻覚・興奮・注意力低下などの過活動型と無反応などの低活動型がある。夜間に症状を呈することが多いなど、日内変動が大きく、身体疾患・感染症・薬剤など可逆的要因の対応が重要である。うつ病は抑うつ気分、意欲低下が中心で、記憶障害様の“仮性認知症”を呈することがあるが、自覚的な困難の訴えが強く、症状は比較的急に始まることが多い。薬剤により症状の軽減可能で可逆的である。

設問4. 認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるような共生社会の実現に向けて、市民としておよび専門職としてどのようなかかわりや働きかけ、看護が重要であるか、自己の考えを述べなさい。

（解答例）市民としては、認知症に関する正しい理解を深め、偏見や誤解をなくし、本人の意思を尊重した自然な関わりを行うことが求められる。専門職としては、本人の生活歴や価値観に基づく個別性の高い支援を行い、強みやできることを生かした生活を共に考える姿勢が重要である。さらに、家族への負担軽減や多職種連携を促進し、地域資源をつなぐ役割も担う。本人の声を尊重し、身体・心理・社会的側面から包括的にその人のニーズをとらえてケアにつなげていく。

設問5. 認知症の人の意思決定支援について、自己の臨床経験でかかわった事例を具体的にあげて、①どのような意思決定支援にかかわったか、②上記ガイドラインの土台である「人的・物的環境の整備」と意思決定支援の3つのステップに沿って、かかわった支援内容を記載し、③支援の結果とその結果から考察する課題について論じなさい。

（解答のポイント）

自己がかかわった事例について、上記①-③のステップに沿って、記載されている内容を評価する。

看護学専攻（修士）

試験科目：専門科目（地域看護学）

【解答のポイント】

I. 以下の2つの内容が含まれている。

1. こども基本法の6つの理念との関連で課題があげられている。

解答例：病気を抱える家族の世話等が必要なため、学校で学んだり、遊んだりする時間が制限されるなど、いわゆるヤングケアラーとしての役割を担い、こどもの成長・発達に問題が生じている。

2. 看護専門職として経験した実践上の具体例を示している。

II. 各設問において、以下の内容が含まれている。

1. 地域包括ケアシステムに含まれる保健・医療・福祉・教育分野等の多機関や、関係する専門職や地域住民等との連携における課題について、理由を含めて論理的に説明している。

2. 地域包括ケアにおける看護専門職の役割について、ケアマネジメント、チームマネジメント、ケアシステム構築、地域づくりの視点から説明している。